

再発性無気肺を合併した気管支 カルチノイドの1例

なが み はる ひこ や の しゅう いち
長 見 晴 彦¹⁾ 矢 野 修 一²⁾
あら き くに お とく しま たけし
荒 木 邦 夫³⁾ 徳 島 武³⁾

キーワード：気管支カルチノイド，再発性無気肺，気管支肺炎

要 旨

今回，再発性無気肺を合併した気管支カルチノイドの1例を経験した。症例は29歳，女性。気管支炎を短期間に3回罹患した。胸部X線像では右下肺野（右下葉）に無気肺を認め，再発を繰り返した。呼吸器専門病院へ紹介したところB7の気管支結石による無気肺と診断され手術を施行された。術式は右肺底区域切除が施行された。切除標本ではB7，B9+10まで硬化性変化がみられる定型的気管支カルチノイドであった。術後経過は良好であった。遷延性あるいは再発性無気肺，特に右下葉に発生する症例では気管支カルチノイドによる気管閉塞が惹起する無気肺も考慮する必要があると考えられた。

はじめに

気管支カルチノイドは原発性肺腫瘍全体の1-5%を占める稀な疾患である。腺様嚢胞癌 (adenoid cystic carcinoma)，粘表皮癌 (muco-epidermoid carcinoma) とともに low grade malignancy の範疇に分類され，以前は bronchial adenoma と呼ばれていた腫瘍である。組織学的には定型的な組織像の多少により定型的カルチノイドと非定型的カルチノイドに分類され，発生部位により区域

枝よりも中枢側に発生する中枢型と亜区域枝よりも末梢側に発生する末梢型に分類される¹⁾。一方，本腫瘍には特異的な症状がなく発見されにくい点に特徴がある。今回，遷延性，再発性の無気肺を合併した気管支カルチノイドの1症例を経験したので文献的考察を加え報告する。

症 例

症例：29歳，女性

現病歴：平成17年6月16日，発熱，頑固な咳にて来院した。通常の気管支炎と診断し，抗生物質投与及び，鎮咳剤，去痰剤を投与したが難治性であったため胸部X線を撮影したところ右下肺野に無気肺像を認めた。点滴加療，抗生剤投与し治療

Haruhiko NAGAMI et al.

1) 医療法人健晴会 長見クリニック

2) 国立病院機構松江病院内科 3) 同 外科

連絡先：〒699-1311 雲南市木次町里方633-1